

企業LED化新たな光

省エネの効果大 環境配慮に評価

ビルや店舗などの照明を省エネ効果の高い発光ダイオード(LED)に切り替える道内企業が増えてきた。LEDの製品も多様化し、海外メーカーと提携して売り込みを強める販売業者も出てきた。

(野島正徳)



札幌市の歓楽街・ススキノで、飲食店などが入居するテナントビル3棟を運営する「藤井ビル」(同市中央区)は昨年末、最も規模の大



LED照明に切り替わった「F45ビル」のエレベーターホール。最新のLED照明を紹介する越智社長



道電力泊原子力発電所が長期停止に入り、電力需給の逼迫に備えた昨夏の「7%節電」が発端となった。当初は照明の半分を間引きするなどしたが、社員から薄暗さを懸念する声があり、冬の節電期間入りを機にLEDへの交換を決めた。

札幌市中央卸売市場内に

店舗を構える鮮魚類仲卸業者「札幌シーフーズ」も、店内の照明をLEDに替えた。北村勝満社長(60)は、サケの筋子や水槽内を動く毛ガニを指さし「この色合いは、自然のまま。お客さんから『商品を選ぶのにいい』と高い評価を得ている」と笑う。

北村社長はLEDメーカーと光量や色調について協議を重ね、鮮魚類本来の色を演出できる照明を採用した。買い付けに訪れる小売店主や料理人たちの厳しい目に堪えうる売り場作りを展開し、「環境に配慮した会社」としてイメージアップにもつながった。

LEDの販売業界もいかに活気づいている。台湾の大手メーカー「日本法人の北海道地区代理店として昨年8月に設立された「あかりみらい」(札幌市白石区)には、大手コンビニエンスストアのチェーンや飲食店、ビルオーナー、スキー場、メーカーの工場、自治体といった幅広い層から引

き合いがある。技術力を背景に顧客の要望に沿った商品を手がけている。越智文雄社長(55)は「スイッチの切り替えで光量を調節できる蛍光管が開発されるなど、LED技術は日進月歩している。まだまだニーズはある」と商機の拡大に意欲をみせる。